

商店建築

12

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN/INTERIOR/ARCHITECTURE 2017 Vol.62 No.12

New Shop & Environment

LAWRY'S THE PRIME RIB

ロウリーズ・ザ・プライムリブ 赤坂店

Feature Article

BOUTIQUE

ブティック

JAPANESE DINING

居酒屋

Special Feature

GOLF CLUB SPACE DESIGN

いまどきのゴルフ場施設

Special Focus

居酒屋のカウンター 図面集
SNSへと誘うショップフロント
ゴルフ市場の傾向

Feature Article

FACADE

ファサード特集

CLUB LEXUS



Lighting in the Space

[明かりのある情景]

vol.24

“ AIM (2013) ”

designed by >>> Ronan & Erwan Bouroullec



重力に逆らうかのようにランプがさまざまな方向に向く様子から、この製品のフレキシビリティの高さがよく分かる。パリのKreo galleryで発表されたエイムの原型では、ランプと共にコードまでもが上質なレザーで包まれることで、器具の存在感が希薄となり照明の効果が際立っていた (写真提供 / Studio Bouroullec)

植物のように伸びるコードが ランプの自由な動きを生む

私達が照明を使う目的は何だろう？ 空間を明るくするためだけではなく。意識的ではなくとも、特定の人や物、決まった場所を照らすのにふさわしい手法や照明器具を選択し、適切な位置へ配置しているだろう。しかしながら、時間の経過に伴い、その状況は変わっていく。照らされるべき人は1か所に留まらず、照らされるべき物や場所が移動することも少なくない。このような環境を前提に、照明に

求められるさまざまなニーズに応えようとするのが「エイム (AIM)」だ。

アルミダイキャストのボディーにポリカーボネート製のカバーがはめ込まれたランプから長く伸びるコードは、天井に取り付けられた部品を支点とし、再びランプ側面へと戻る。滑車のようにコードを上げ下げすることで、ランプの高さを変えることができる仕掛けだ。更に光の向きが変えられ、天井の他、壁からの給電も可能。自由な発想によるアレンジを叶える照明器具となっている。

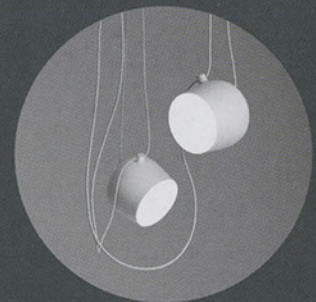
このような可変性に富んだ照明をデザインす

ることは、永遠のテーマと言えるだろう。エイムをデザインしたブルレック兄弟以前にも、さまざまなデザイナーがそれを試みてきた。アキッレ・カスティリオーニがデザインした「バレンテジ」(1971)では、天井から吊るされたワイヤーに沿ってランプが上下方向へ可動する構造により、高いフレキシビリティが備わっていた。また3本のワイヤーで支持されたランプを、上下左右に動かして任意の位置に置くことのできるインゴ・マウラーの「Da+Dort」(2013)も同じ方向性を持った製品だ。

しかしながら、照明器具のデザインには物理的な制約が常につきまとう。特にLED以前では既存光源の形状、給電のためのコードの存在がデザインの前提になった。また天井や壁面に施工した後は、照明は自ずと固定的な存在になりがちだ。

エイムの最大の特徴は、制約条件の一つであるコードをデザインとして有効に活用したことだ。植物の蔓のようにも見える、しなやかさを備えたコードは、邪魔者には感じられない。これはフランス・パリのKreo galleryで発表されたエイムの原型「Liane」から引き継がれているコンセプトだ。

エイムは照明の目的を問うランプである。その代わりに、人や物に無理や不便を強いることなく、望ましい方向を照らそうとするあなたの気持ちにしっかりと応えてくれるだろう。



AIM (2013) 16年に小型タイプ「AIM SMALL」(直径170mm)と、落ち着いた雰囲気の新色ブラウンがラインアップに加わった。単灯タイプの他、多灯でのアレンジが可能となるパーツも用意され、住宅から商業施設まで多様な空間で使用できる (写真提供 / 日本フロス)